
Poster | カテーテル治療

Poster (I-P04)

Chair: Masataka Kitano (Department of Pediatric Cardiology, National Cerebral and Cardiovascular Center)

Fri. Jul 7, 2017 6:00 PM - 7:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:00 PM - 7:00 PM

[I-P04-01] Amplatzer device 留置後6年4ヶ月で心房壁に潰瘍を形成し device 除去を要した1例

○上松 耕太¹, 岡村 達¹, 瀧口 洋司¹, 安河内 聡², 瀧間 浄宏², 武井 黄太², 内海 雅史², 浮網 聖実², 中村 太地², 川村 順平², 原田 順和^{1,2} (1.長野県立こども病院 心臓血管外科, 2.長野県立こども病院 循環器科)

Keywords: ASD, device 除去, 心タンポナーデ

症例は、14才の女兒。2010年7月、ASDの診断に対して Amplatzer device 18mmを留置され、2016年11月、胸痛を主訴に近医を受診し心タンポナーデと診断され当院へ搬送後、準緊急で device除去を行った。術前、当院にて施行したエコーでは左房と右房 disk間に血流を認めた。手術は、体外循環、心停止下に device除去を行った。右房壁の一部に erosionを認めそこが出血源と予測され、同部を修復閉鎖した。心房中隔に留置された deviceは aortic rimから遊離しており、癒着組織で固定された deviceは除去し ASDを自己心膜で補填、閉鎖した。術後経過は良好であった。Device留置後6年4ヶ月で除去を要する症例は稀で、本症例は device留置後の経過観察上有用な教訓となる。